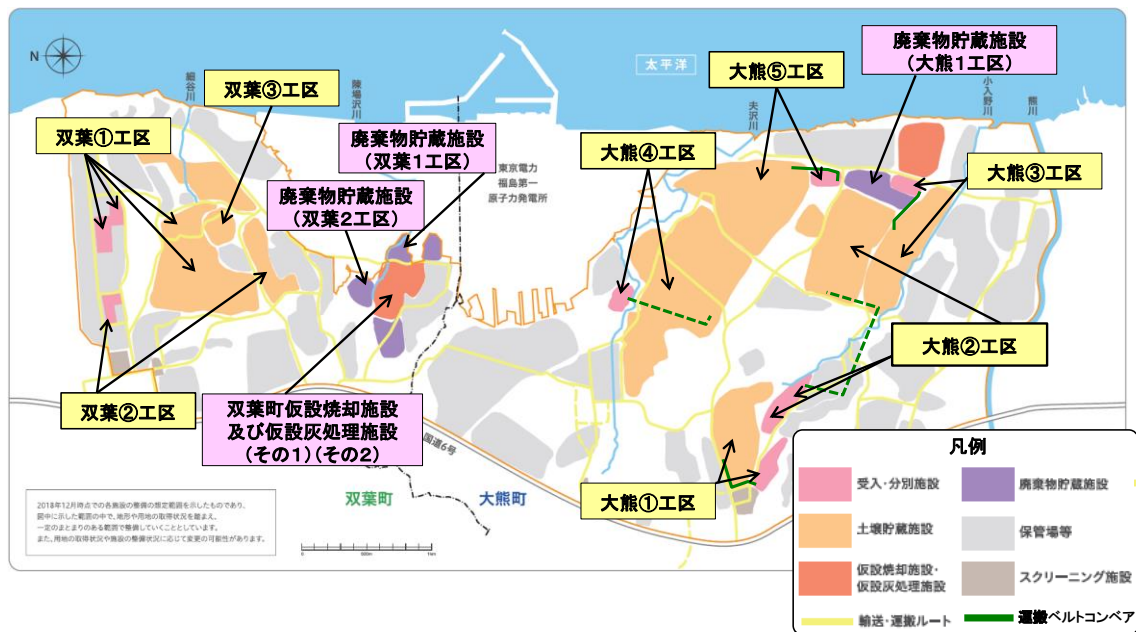


中間貯蔵施設の整備の現状

令和元年 12 月 6 日

中間貯蔵施設の整備の現状について

- ・ 2016 年 11 月に、大熊町・双葉町に受入・分別施設、土壌貯蔵施設を着工。
- ・ 2017 年 6 月に除去土壌等の分別処理を開始し、2017 年 10 月には土壌貯蔵施設への分別した土壌の貯蔵を開始。(大熊工区では 2017 年 10 月、双葉工区では 2017 年 12 月より除去土壌の貯蔵開始)
- ・ 2019 年 8 月に第 3 期大熊⑤工区受入・分別施設及び大熊④工区受入・分別施設が運転を開始。これにより、現在整備している全ての受入・分別施設（9 施設）で運転を開始。また、土壌貯蔵施設は全 8 工区中 6 工区が運転している。
- ・ このほか、仮設焼却施設等や廃棄物貯蔵施設等の整備を進めている。



受入・分別施設及び土壌貯蔵施設の概要 (2019年11月30日時点)

工区	大熊①工区	大熊②工区	大熊③工区	大熊④工区	大熊⑤工区	双葉①工区	双葉②工区	双葉③工区
受入・分別施設数 ^{※1}	1	2	1	1	1	2	1	—
土壌貯蔵容量 ^{※2}	約100万m ³	約330万m ³	約140万m ³	約140万m ³	約200万m ³	約140万m ³	約90万m ³	約80万m ³
着工	2017年9月着工	2016年11月着工	2017年11月着工	2018年10月着工	2018年10月着工	2016年11月着工	2018年1月着工	2018年9月着工
受入・分別施設スケジュール	2018年7月運転開始	2017年8月 2018年7月 運転開始	2018年7月 運転開始	2019年8月 運転開始	2019年8月 運転開始	2017年6月 2018年9月 運転開始	2019年2月 運転開始	(なし)
土壌貯蔵施設スケジュール	2018年7月 運転開始	2017年10月 運転開始	2018年10月 運転開始	2019年冬 以降運転開始 予定	2019年4月 運転開始	2017年12月 運転開始	2019年5月 運転開始	2019年秋 以降運転開始 予定
受注者	鹿島JV	清水JV	大林JV	清水JV	大林JV	前田JV	大成JV	安藤・間JV
貯蔵量 ^{※3}	24.8万m ³	63.4万m ³	23.7万m ³	-	11.4万m ³	18.5万m ³	9.9万m ³	-

※1 発注時の1施設当たりの処理能力は140t/時。双葉③工区は、受入・分別施設を整備していない。

※2 貯蔵容量は、仮置場等からの輸送量ベース（1袋＝1m³で換算）。用地確保状況等により変更となる可能性がある。

※3 貯蔵量は、土壌を締め固め後の量として計算。

仮設焼却施設及び仮設灰処理施設の概要

工区	大熊工区	双葉工区その1業務	双葉工区その2業務
規模	・仮設焼却施設： 200 t/日 × 1 炉 (ストーカ炉)	・仮設焼却施設： 150 t/日 × 1 炉 (シャフト炉) ・仮設灰処理施設： 75 t/日 × 2 炉 (表面熔融炉)	・仮設焼却施設： 200 t/日 × 1 炉 (ストーカ炉) ・仮設灰処理施設： 75 t/日 × 2 炉 (コークスベット式灰熔融炉)
業務用地面積	約5.0ha	約5.7ha	約5.7ha
着工	2016年7月伐採・造成開始	2018年6月伐採・造成開始	2018年6月伐採・造成開始
建設工事スケジュール	2016年12月開始	2019年1月開始	2019年1月開始
運営・維持管理スケジュール	2018年2月運営開始	2020年3月運営開始予定	2020年3月運営開始予定
受注者	三菱・鹿島JV	新日鉄・クボタ・大林組・TPTJV	JFE・前田JV

廃棄物貯蔵施設工事の概要

工区	大熊1工区	双葉1工区	双葉2工区
規模	<ul style="list-style-type: none">貯蔵施設 2棟貯蔵量：約28,800個	<ul style="list-style-type: none">貯蔵施設 1棟貯蔵量：約14,400個	<ul style="list-style-type: none">貯蔵施設 1棟貯蔵量：約30,000個
着工	2018年7月着工(造成工事)	2018年6月着工(造成工事)	2019年内着工予定(造成工事)
定置・維持管理 スケジュール	2020年3月定置開始予定	2020年3月定置開始予定	—
受注者	鹿島建設	大林組	鹿島建設